

Ibara City Hospital  
井原市立 **井原市民病院**

診療科目  
内科・小児科・外科・整形外科  
産婦人科・耳鼻咽喉科・眼科・  
泌尿器科・放射線科・  
リハビリテーション科

〒715-0019 岡山県井原市井原町1186番地 TEL.0866-62-1133 FAX.0866-62-1275 E-mail:byoin@city.ibara.okayama.jp 発行責任者/工藤 尚文

 2階看護助手 渡邊英子	 2階看護師 稲葉美恵子	 2階看護師 三宅輝美
 4階看護師 原田康江	 4階看護師 三村美恵	 3階看護師 長谷川美千代
 5階看護師 室山美智子	 5階看護師 坂本英子	 5階看護師 蔵本礼子

新しい仲間が増えました。  
皆さんよろこび！

 作業療法士 川上浩一郎	 診療放射線技師 岡本吉生	 臨床検査技師 片山裕美
 外来看護師 川上昌子	 外来看護師 村上和美	 医事 山本勝巳
 調理員 片山登美恵	 調理員 小山千枝美	 管理栄養士 加賀桂子

## 日本医療機能評価機構の定める認定証を受領して



井原市民病院は、(財)日本医療機能評価機構が実施している病院機能評価を去る平成15年10月13日～15日までの3日間で受審いたしました。

これは当院が病院として保有している機能が一定以上の水準に達しているかどうかを第三者機関の調査により評価してもらうことで、病院機能評価受審のために、医師及び看護師はもちろん全職員が丸となって準備を約1年かけて行いました。しかし結果は、平成15年12月16日付で認定発行保留となりました。

(これは、「改善要望事項」が全て改善されてから発行することです。)

さらに平成16年3月9日付で「病院機能評価審査結果報告書」を受取り、改善する4項目を把握するとともに、1年以内にその改善を行い再審査の申込をする必要がありました。

こうした改善を1つずつクリアして、平成17年2月2日付で再審査の申込を(財)日本医療機能評価機構に対して行いました。改善努力の結果、平成17年5月30日の評価委員会の審議の結果、認定書を交付することの通知(6月3日付)がありました。

当院が病院機能評価を受審して1年8ヶ月、待ちに待った認定書の交付は、平成17年6月9日のことでした。

この病院機能評価を受審して、

- ① 良い医療を提供するというところに職員の意識が向いたこと。
- ② 全てのことをマニュアル化(文書化)して、医療を標準化したこと。
- ③ 第三者に評価してもらうことで、病院機能が向上したこと。

が挙げられます。

このことを契機として、新築された井原市民病院がさらに市民の皆さんから信頼される病院になりますよう、職員一同なお二層努力して参りたいと思っております。

### 井原市民病院基本理念

1. 患者の権利を尊重し、情報提供によって患者が納得出来る医療を行い、地域住民に信頼される病院を目指します
1. 医学の進歩に相応した高いレベルのしかも安全管理が行き届いた医療が行えるよう、日々研鑽に励みます
1. 地域医療体系の一環として相互の連携を密にし、機能分担を考慮した効率的な医療を提供します
1. 医療を受ける側の身になって考え、暖かい心の手を差し伸べることを忘れません

### 井原市民病院職員の誓い

1. 私たちは、市民の生命(いのち)と健康を守り、心のこもった診療をいたします。
2. 私たちは、質の高い医療を目指し、日々研鑽いたします。
3. 私たちは、病める人の身になって考え、最善の理解者となるよう努力いたします。

# Nutrition Support Team NST委員会報告

## NST活動について

栄養状態が悪ければ①病気に對する抵抗力が弱くなる、②病気にかかりやすい、③二つ以上の病気にかかりやすい、④傷が治りにくい、⑤入院期間が長くなるなどの問題が起りやすいと言われています。そこで、主に入院しておられる患者様について栄養状態に問題がないかどうか評価し、問題があれば栄養療法を行って解決するように医師、看護師だけではなく栄養士、薬剤師、臨床検査技師、理学療法士、言語療法士など病院内のいろいろな職種の方がチームを組んで取り組むのがNST「栄養サポートチーム」の活動です。

栄養療法とは「体に必要な栄養を投与すること」で、特に病気のために口から食事が摂れない時や、食事を摂ってもうまく代謝できず栄養が不足するときなどに行われます。この様な時には①栄養を摂取する方法を変える、②栄養を摂取する量や内容を変えることを行います。

①の栄養を摂取する方法は大きく二つのやり方があります。一つはいわゆる点滴と呼ばれるもので専門的には静脈栄養と言います。また鼻やお腹につけたチューブから胃や腸に直接栄養を送り込む方法もあり、普通の食事方法も含めて経腸栄養と言います。

②の栄養の内容については、患者様の性別、年齢、身長、体重、病気の影響などを考えて、個人にあった栄養内容を考えていきます。

現在井原市民病院では栄養不良と特に関連が強いと言われている褥創（＝床ずれ）対策と関連付けて栄養療法について学習したり、栄養に特に問題のある患者様をピックアップし状態を評価したり改善方法について検討したりという形での取り組みを開始しています。

将来的には入院されるすべての患者様に対して栄養状態について検討し、必要な方には栄養サポートができるように活動を充実させていくよう努力したいと思っておりますので、ご理解ご協力をよろしくお願い申し上げます。



## リスクマネージメント委員会 活動報告

厚生労働省が事故防止対策に関わる委員会の設置を義務づけ、本院での活動が開始されたのが平成13年からでした。当初、「医療事故防止委員会」という名前で発足しましたが、事故防止の活動を通して「医療の質向上」というところに視点を置き、委員会の名前を「リスクマネージメント委員会」と変更しました（平成15年）。同時に、委員会活動をより実践的なものにするために、部会の設置を行いました。

部会活動の中の一つとして事故防止対策の立案実施があります。各部署から提出されたインシデント報告書をもとに危険度の高いもの（影響度、頻度の多いもの）から順位を決め、手順、方法などの対策案を検討します。部会で検討された内容が、リスクマネージメント委員会に提言され、委員会でも検討され、承認された内容が実際の対策案になります。対策案の実行には、感染委員会、教育委員会、業務委員会などの各委員会の協力が不可欠となります。他に広報、リスクマネージメント教育などの啓蒙活動があります。

平成16年度の活動として、リスクマネージメント指針を完成することができました。冒頭には院長先生のリスクに対する取り組みの姿勢の言葉を提示しています。今後、共有フォルダの中のリスクマネージメント委員会の指針を「読んでいただきたい」と思っています。

平成17年度は、①16年度に提出された報告書をもとに、マニュアルなどの見直しを行う、②医療者対医療者医療者対患者のコミュニケーションの大切さを重視した教育・啓蒙を活動目的にしています。皆様もご周知のように、ルールを守ることはもちろんですが、職員間の良いコミュニケーションはお互いの気づきや情報、意見を豊かに伝えることにつながり、結果として事故を未然に防ぐことに大きく役立ちます。患者様との良好なコミュニケーションも、事故防止にも事故が起きたときに信頼関係が確立されていれば、大きな混乱を避けることに役立ちます。

いずれにしてもリスクマネージメントの活動には、「出来ない」ではなく「病院をよくしていく」という職員個々の意識の向上と協力が必要となります。今後とも、リスクマネージメント活動にご協力くださいますようお願いいたします。

## リハビリ広域支援センターだより

平成17年10月18日にやかげ文化センターにて第5回目の井笠地域リハビリテーション広域支援センターの研修会が行われました。講師に川崎医療福祉大学医療技術学部感覚矯正学科の種村純教授をお招きし、「高次脳機能障害のリハビリテーションと社会的支援」という題で講演をしていただきました。

井笠地域から医療介護関係者だけでなく幅広く多数の参加を賜り大盛況に終わりました。高次脳機能障害の症状や対処法、また社会的に期待されるケアのあり方を分かりやすく講演いただきました。高次脳機能障害は外見からは分かりにくく、まだまだ社会的認知度が高いとは言えません。しかしながら実際にこの障害で困難を感じている方はたくさんいらっしゃいます。今回の様な講演会を通して良いと思えます。

（文責 西岡 清隆）



## 糖尿病教室

糖尿病教室を平成17年6月15日（水）に開催いたしました。

患者様28名のご出席をいただき、下記のプログラムにて行いました。

- ・「糖尿病について」  
内科医師 島田 百利三
- ・「糖尿病治療薬について」  
薬剤師 実政 裕
- ・「食事療法～主食編～」  
管理栄養士 森山 智子

患者様からは「詳しく教えていただき、ありがとうございました。また、この様なお話を聞きたいと思っております。」「とても参考になりました。薬の飲み方を間違っていました。」などの、ご感想を頂、とても有意義な教室になりました。

次回開催は、11月29日「食事療法」を中心に予定しております。ぜひご参加ください。



## 箏尺八演奏会

平成17年6月30日（木）午後2時から5階療養病棟 デイルームにて井原三曲会有志の皆様により、箏尺八の演奏会がありました。東森マスコ様 國田珠美様 渡辺恵美子様 川上幸雄様の4名の皆様は市内を中心に各地で演奏会をされています。その中でボランティア活動も随時されており、すこしでも患者様の癒しとなればということで、今回当院へボランティアでの演奏会が実現しました。

5階療養病棟の患者様、ご家族を中心に各病棟からの患者様など多数ご参加がありデイルームは杯、廊下から鑑賞される方もあるほどでした。日頃からよく知っている曲や昔馴染みのものを選んでいました。患者の皆様と一緒に歌を歌いながらの演奏で、昔を思い出したと感極まり涙を流す方や拍子をとりにながら歌っている方もおられ、皆様と楽しい時を過ごされました。

演奏を終えた三曲会の皆様の感想として、「皆様が熱心に聞いて下さり、私達も楽しい時を過ごすことができました。皆様に喜んで頂き、箏尺八をやっていると良かったと思います。今回市民病院でのボランティアは初めてでしたがこの様な形でよければ、また参加させて頂きたいと思っております。」とのことでした。

患者様、ご家族からは「たいへん良かった。やっぱり日本人は箏や尺八が馴染む。今日はいいのを聞かせてもらいました。」などの感想を頂きました。5階療養病棟では、翌日の朝食にもこの話題が出て、皆様感動されていたことがよくわかる場面もあったほどの反響でした。

三曲会の有志皆様にはお忙しい中、ご奉仕頂き本当にありがとうございました。演奏された曲目を紹介いたします。

- 1、六段
- 2、荒城の月
- 3、東京行進曲
- 4、船頭小唄
- 5、中国地方の子守唄
- 6、さくら
- 7、尺八 本曲「木枯」の7曲です。



## ちよつと いっぷく!

あいているマスに漢字を入れ、四字熟語を作ってください。同じ数字のマスには同じ漢字が入ります。

後	1	大	2	3	1	懸	命	有	名	4	5
6	7	8	倒	1	1	流	7	9	機	3	7
4	10	4	冠	二	10	3	11	四	12	8	12
2	5	4	根	6	難	8	12	3	9	同	11

対応表

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
---	---	---	---	---	---	---	---	---	----	----	----